

男爵記念館農機類標本台帳

一般名称: 散播機、カフーン式	現地の通称:
資料種別: <input checked="" type="radio"/> 製品-実物 <input type="radio"/> 製品-レプリカ <input type="radio"/> 製品-模型 <input type="radio"/> 製品図面 <input type="radio"/> 写真等 <input type="radio"/> 図書掲載 <input type="radio"/> その他	
資料種類: <input checked="" type="checkbox"/> 人力用具 <input checked="" type="checkbox"/> 手押し式 <input type="checkbox"/> 耕耘用 <input type="checkbox"/> 調製用 <input type="checkbox"/> 畜力用具 <input type="checkbox"/> 乗用式 <input checked="" type="checkbox"/> 施肥播種 <input type="checkbox"/> 施設類 <input type="checkbox"/> 原動機具 <input type="checkbox"/> 牽引式 <input type="checkbox"/> 管理用 <input type="checkbox"/> 機素 <input type="checkbox"/> トラクタ具 <input type="checkbox"/> 定置式 <input type="checkbox"/> 収穫用 <input type="checkbox"/> その他	管理プレートNo. <input style="width: 100px;" type="text"/>
	台帳No. <input style="width: 100px;" type="text" value="D037"/>
相手先番号等 <input style="width: 100px;" type="text"/>	
製作者・会社: 不明	
製造年_購入年,標本収集年 <input style="width: 100px;" type="text"/>	
使用目的・使用方法等 牧草などの散播器。播種作業は、種子を畑に播くのみとはいえ、播種の良し悪しで初期成育に大差が出るため、重要な作業である。牧草のような「散播」、標本機による「点播」(1粒点播と数粒の株播き)、麦類等の畦に連続して播く「条播」の各々に対応する播種機がある。標本のカフーン式は、1971-4年にわが国で初めて開拓使が輸入し、七重官園での成果が記録に残っている。その後に回転羽根で跳ね飛ばすラックピニオン式の散播機も輸入されると、恐らく明治末期となるが、ラックピニオンを安価なロープに変えたバイオリン型散播機が発明されて北海道で広く普及した。なお、播種後にネットハローや柴ハロー等を使って覆土する必要がある。	
利用経過 収集記録 意義等	
仕様書 解説等 右に 全体図	全体図1: 展示標本 2: 七重官園報告書の図、1878年頃 関連図1: 歯車機構のラックとピニオン方式散播機、ラックを往復動させると羽根が回転して種子を跳ね飛ばす 2: ロープ駆動式のバイオリン散播機、棹を往復させると、それに付けたロープが羽根軸を回して種子を播く
 	
外観特色 関連図等	 
資料の 所在	公開展示室
資料管理 経過	資料追記 事項
作業メモ 追記文	展示標本は、ホッパー上の種子袋、本体を抱くように支える胸掛ベルトは欠品している。